

雑木林の春

クヌギやコナラを主体とする武蔵野の雑木林は、かつて薪や炭、落ち葉堆肥を得るために利用されてきた里山林です。雑木林のような落葉広葉樹林では冬に葉が落ちるため、早春には林床まで光が届き、沢山の花が咲きます。春は、雑木林の光環境が大きく変化する季節です。



昨年春に学習園の雑木林エリア内へ造成した小池の区画で今年、セリバオウレンとニリンソウ、カタクリ、アマナが開花しました。



セリバオウレン



カタクリ



ニリンソウ

これらの植物たちは春の樹木が葉を広げる前の短い期間に生育し、開花して結実する植物で、『スプリング・エフェメラル』と呼ばれます。早春の雑木林は林床へ届く光が多いため、この時期にスプリング・エフェメラルを含む多くの林床植物が成長します。



アマナ



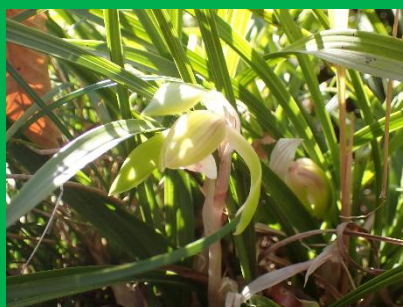
ヒナワチガイソウ



レンブクソウ

雑木林エリアでは他にもアマナやヒナワチガイソウ、レンブクソウなどのスプリング・エフェメラルが見られます。

シュンランやコスミレは早春に咲きますが、地上部が 1 年中あるので普通はスプリング・エフェメラルとは言いません。



シュンラン



コスミレ

林床でスプリング・エフェメラルが咲く頃、雑木林を構成する樹木の多くも花を付けます。クヌギやコナラ、イヌシデ、ツノハシバミなどの樹木は、芽が開くと同時に細長い雄花序を枝から垂れ下がるように多数付けます。これらの花は風によって花粉を運ぶ風媒花で、大量の花粉を放出します。ひとつひとつの花は小さく目立ちませんが、沢山の樹木が同時期に開花して目を引きます。葉が少ない時期に開花することで、花粉が風に乗って広がりやすいと考えられています。



ツノハシバミ



クヌギ



イヌシデ



コナラの芽吹き(展葉)

春が進むと、冬芽が開いて新しい葉が展開します。樹木が葉を広げて林冠が形成されると、林床は徐々に暗くなっていきます。そして、スプリング・エフェメラルは地上部の活動を終えて土の中で眠りにつきます。



コナラの発芽

早春の雑木林では林床の植物の開花、樹木の開花、冬芽の芽吹き、発芽など、植物の生活史(フェノロジーと言います)に関わる現象が短い期間で起こります。

まだ足元の植物も背が低く歩きやすいこの季節、植物多様性センターも含めた身近な雑木林に通って季節の変化をお楽しみください。



3月の雑木林エリア



5月の雑木林エリア